

武蔵野の森を育てる会

2011年9月 武蔵野の森を育てる会

HP : <http://mnomori.web.fc2.com/>

会報 第6号

当会は、武蔵野市公認の緑ボランティア団体です。武蔵野市緑化環境センターとの協働によって、市立「境山野緑地」に豊かな生態系の雑木林（森）を育てるために保全活動を行っています。

境山野緑地には、昔から武蔵野の自然のなかで生きてきた生き物たちが暮らしています。



ハラビロカマキリ

ギザギザのある鎌のような前脚で、ガッチリと小動物を捕え餌にします。卵と泡をともに産み付け、泡が固まると丈夫な卵囊になります。写真は7月に撮影した幼虫です。何度か脱皮して秋には羽の生えた立派な成虫になり、晩秋に卵を産みます。冬越した卵が翌春に孵化します。境山野緑地では、地上1~2mの位置に卵が産み付けられます。

タデ科の多年草で、低地の半日陰の林床、林縁、路傍などに生育します。8~10月に咲く細長い花の集まりが、上から見ると赤、下からは白に見えることから、紅白の水引を連想するため「ミズヒキ」の名称がつけました。写真は果実で、鍵形の花柱が衣服や動物の毛に触れるとくっきます。山野緑地で、この葉を食べるコガネムシの仲間を見つけました。



ミズヒキ



ネキトンボ

俗称「赤トンボ」とは赤いトンボの総称で、アカトンボの仲間やショウジョウトンボ等が含まれます。アカトンボの仲間には数多くの種類があり、境山野緑地ではアキアカネ、ネキトンボ、ナツアカネ、ノシメトンボ、マユタテアカネなどが見られます。6月下旬頃に成虫になり、始めはオレンジ色だった体色が成熟すると鮮やかな赤になるものが多いです。11月頃まで生きているのでトンボの中では長生きです。

(生き物の写真と文:橋本和明)

これらの生き物が元気に暮らしていける森にしたい！それが私たちの願いです。

地域の団体と協力して、さまざまな活動をしています。

大学の学生ボランティア団体との連携（亜細亜大学の「一般奉仕会『細流(せせらぎ)』」と「ボランティアセンター」、成蹊大学のUni）、武蔵野市立第二小学校の授業、武蔵野市立境保育園の自然あそび、武蔵野市立桜堤児童館の行事、日本獣医生命科学大学の授業、しょーとてんぱー（発達障害の子どもたちの活動を支援するグループ）のボランティア体験、武蔵野市クリーンセンターの環境講座「ネイチャーゲームで自然を発見!」、都立武蔵高等学校の社会奉仕体験の授業、ボランティアセンター武蔵野の「夏!体験ボランティア」・・・などなど。
ここでは、いくつかの活動をご紹介します。



第二小学校の授業

総合的な学習の時間を中心に、体験学習の機会を提供しています。写真は、**独歩の森で5年生が行った雑木林の学習**のようすです。**3年生の「町たんけん」**では、独歩の森で子どもたちが当会会員にインタビューをしました。
【3年生の感想文より「楽しかったです。知らない虫やキノコをおしえてくれてありがとうございました。」】

境保育園の活動（ほぼ毎週、園児が境山野緑地で遊んでいます。その様子的一端を、各クラスの先生に教えてもらいました。）

花をつんだり、虫を捕まえたり、木の実を拾って、楽しんでます。追いかけても楽しんでます。（5歳児）／季節ごとのいろいろな草花を使って、ままごとをしています。（4歳児）／小道が多く、たんけん気分になって茂みに入ったりして遊んでいます。（3歳児）

桜堤児童館の「きもだめし」

毎年恒例の「きもだめし」会場で、**境山野緑地の間引きされた低木**が活用されました。とても迫力あるお化け屋敷を、なんと820人の子どもたちが楽しみました。

亜細亜大学ボランティアセンター出身(社会人1年生)の渡辺和也さん



武蔵野の森を育てる会には大学2年の冬から参加しています。

今も参加し続けているのは、**参加しやすい活動内容**があるからです。ボランティアをあまりやってこなかった人でも、専門知識があまりない人でもできる作業が毎回用意されています。

活動に参加している方との交流も楽しみです。社会人になってみて、改めて**大学の後輩や近隣の方々との交流**がとても貴重なものだと感じました。

境山野緑地の植物 ～植生調査の結果から～

調査担当：島田和則

境山野緑地では、わずか1ヘクタールほどの空間に約400種の野生植物が確認されており(当会調査による)、武蔵野市内で大変貴重な緑地です。当会では武蔵野市と協議しながら、これらの多様な植物を保全するための活動を行っています。活動が適切かどうかについては、その効果を科学的データに基づいて検証する必要があります。

そのために、当会では調査担当(2011年度は島田和則、川添萌子、田中純江の3名)により、2008年から緑地内に1箇所当たり100㎡の固定調査区をつくり、植生調査を行っています。調査区は、2008年に「二小ゾーン」(緑地北側中央のロープ柵で保護してある部分。2005年に市立第二小学校の子どもたちが植栽に参加)に1箇所、緑地南側の「独歩の森」には2009年と2010年に1箇所ずつ、計3箇所つくりました。これまでの調査の結果から、今回は植物の出現種数(100㎡の調査区の中に何種類の植物が出てきたか)と外来種の変動について、簡単に報告します。

1. 「二小ゾーン」

ここは植栽から6年目のまだ若い林です。2008年の調査では、調査区内で最も大きい木の高さは6mでしたが、今年の調査では11.3mに達し、森林らしい景観に変わりつつあります。

ここでは、2008年：56種、2009年：60種、2010年：48種、2011年：49種の植物が出現しました。この間に消えた種を見ると、ヨモギ、ハハコグサ、カゼクサなどの草原や道端の植物や、オッタチカタバミ、ウラジロチチコグサなどの外来種です。したがって、環境が草地から森林に変わったことによる植物の入れ替わりと、外来種を抑える作業の結果と思われる。

外来種についてみると、2008年から2011年の4回の調査で延べ17種が出現しました。このうち11種は、2011年までに調査区内からは消失しました。消失の原因としては、森林化して暗くなったことにより、外来種を除去する活動の効果が出やすかったことが考えられます。残りの6種も、被度(調査区内を被っている割合)が5%未満に抑えられています。外来種は、地域の生物多様性を脅かすものであり、今後も抑えていく必要があります。

2. 「独歩の森」

ここは、最後の皆伐更新から60年以上経過し、樹高が20mを超える林です。2009年に調査区を設置した北西部では、2009年：41種、2010年：42種、2011年：48種の植物が出現しました。2010年に調査区を設置した西部では、2010年：59種、2011年：50種が出現しました。この結果は、都内の他の雑木林と比べると、市街地の孤立した林としては大健闘といえる種数です。このように、「独歩の森」では中央部では植物が衰退していますが、周辺部では多くの種が残っていることがわかりました。また、まだ若い二小ゾーンと比べて、外来種の少ない傾向がありました。

ここでは、毎年冬にササ刈り、外来種の除去、常緑樹の間引きや剪定を行っています。ササはおおむね繁茂を抑えられています。栽培植物であるチャノキについては、西部でわずかに被度の増加がみられており、これが種数の減少に関係していた可能性もあるので、もう少し抑えることが必要と思われる。



2005年(植栽直後)



二小ゾーンの様子

2011年(現在)

境山野緑地は、平成17年4月、武蔵野市立の緑地として開園しました（緑地の名称は、かつてこの地域が武蔵野村大字境字山野であったことに由来します）。この地域一帯は、雑木林をこよなく愛した**明治の文豪である国木田独歩**が小説『武蔵野』の**舞台**とした場所です。そのため、公園の南側半分は、地元の人から「**独歩の森**」とも呼ばれ親しまれています。

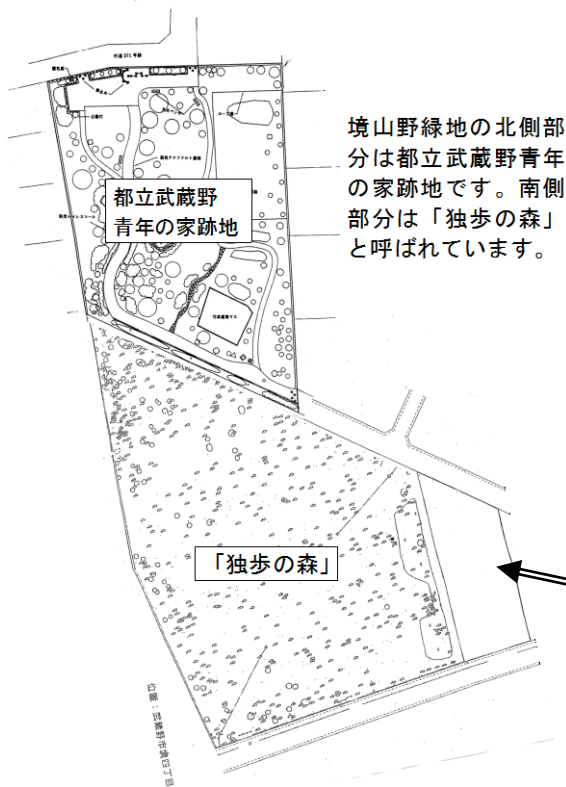
コナラやクヌギといったドングリの木を中心とする武蔵野本来の雑木林は、今では武蔵野市内からほとんど姿を消し、**境山野緑地が唯一の存在**となってしまいました。わずか1ヘクタール程の面積ですが、武蔵野市においては**歴史と文化が感じられる貴重な自然空間**です。

境山野緑地南側の「独歩の森」



境山野緑地北側の旧武蔵野青年の家跡地

さかいさんやりよくち
境山野緑地平面図



一緒に森のお手入れをしませんか？

武蔵野の森を育てる会は、原則として月2回の定例作業を行っています。作業内容は、草刈り、草取り、枝伐り、腐葉土づくり、清掃など森のお手入れです。月々の予定は、ホームページや境山野緑地内の掲示板でお知らせしています。どうぞ、一緒に森のお手入れでいい汗を流しませんか？（道具類の購入などのため、寄付も常時受け付けています。）

境山野緑地の位置：JR中央線武蔵境駅北口より徒歩十分、スキップ通りを直進してはんこ屋さんの角を左折。（住所：東京都武蔵野市境4-5）

